

台東区区民憲章策定区民会議
第1回班別会議 2班 議事概要

日時：平成17年9月29日（木）20時15分～21時

場所：台東区役所 1001会議室

<分科会の進め方について>

憲章への考え方

- ・ 憲章が目指すべきゴールのイメージは個々で異なる。はじめから「憲章とはこうあるべき」と決めてしまわずに、皆の心の中にある憲章のイメージ、憲章への想いを出し合い、確認していく過程が必要ではないか。

意見の集約方法

- ・ 個々の持っているイメージを共有し、合意させていくためのブレインストーミングが必要である。KJ法などを用い意見を集約し、このグループとして「台東区らしさ」を提案し、他のグループと議論していけばよいのではないか。
- ・ 多くの意見を取り入れるという意味では自治会などを通してポストイットを配布し、意見を集約していくという方法を取り入れてもよいのではないか。

議員との兼ね合い

- ・ 区議は党派・会派があるので最終的には意見がまとまらないという認識ではなく、区民委員も台東区15.6万人の代表に選ばれたという気概を持って取り組んでいるのだから、同じ土俵に乗って議論すべきである。
- ・ 議員もこうした議論にはオブザーバとして個人的な意見にとどまってもよいので参加すべきである。

各グループが同じ議論をしながら進むのがよい

- ・ 少人数での議論は意見集約にはよいと思うが、各論のみを議論する分科会のような形は時局尚早であり、今は同じテーマを議論して、発表して、ともに進んでいくのがよい。

<憲章の内容について>

「次世代に残したいもの」を掲げる憲章がよい

- ・ 憲章には、次世代に対してどういう台東区を残したいかという視点で取り組みたい。
- ・ 私たちが亡くなった後にも引き継いでいきたい台東区らしさを考えていきたい。
- ・ 新しいものだけでなく、古き良きものを掘り起こし、次世代に伝えることが大事である。

文言よりも推進体制が重要

- ・ 憲章の内容については、その文言と同時に策定後の推進活動の内容が重要である。
- ・ 推進活動で何をするのかを考え、ゴールを決めてから憲章の内容を決めていった方がよい。憲章を用いて、訴えかける相手を見据えて、そこにどのようにアプローチしていくのかを考えないと、憲章だけが宙に浮いてしまう状況になりかねない。

<台東区らしさについて>

「粋」「心意気」

- ・ 「粋」という言葉が台東区の象徴的な言葉の一つであると考えている。台東区にある粋・心意気という文化は是非、憲章に盛り込みたい。
- ・ 次世代に残したい台東区の「らしさ」といえば、鍵を掛け合うこともないほど、心が通っていた時代に戻ってほしいと思う。ちょうど台東区の歌の3番の中段にあるような「隣り合わせのうらおもてなく 昔ながらの心意気」である。

やさしさ・人情

- ・ 近年の台東区の変化を思うと、やさしさ・人情がなくなった気がする。時代の変遷とともに失ってよいものもあるが、失ってはいけないものもある。
- ・ 暮らしやすさを追求していくことが大事である。墨田区に第二東京タワーが建設され、浅草も一体的に振興されると思われ、台東区にはこういうにぎわいもあるが、同時に路地で囲炉端会議が日常的にあるような雰囲気を残していきたい。
- ・ 台東区のイメージを他人に聞いてみると、やはり「下町文化」「人情」のようである。江戸時代の文化と現代の最先端の文化が同居しているといった地域であると思う。

「下町」は台東区固有のイメージではない？

- ・ 学生に台東区のイメージを聞くと「下町っ子」という声が多いがこれでは江戸川区や葛飾区などにも同じイメージがある。また、「江戸っ子」というもの厳密には違うのではないかという意見もある。そういう意味では「台東区らしさ」が必要ではないか。

豊かな地域性

- ・ 「台東区の歌」や区内の小中学校の校歌の歌詞には、上野の山や隅田川など地域特性が歌われており、区内各地域に特徴があるというのも台東区らしさである。
- ・ 台東区は上野・浅草など地域の特色がとて強いので、台東区として1つの「らしさ」を打ち出すのは難しい面もある。

地名から区名が連想されない

- ・ 台東区らしさということをこれまで考えたことがなかったが、「台東区」というイメージと「上野・浅草」というイメージはあまり連想されない。
- ・ 銀座と中央区など地名から区名が浮かぶこともあるが、台東区では上野・浅草といっても台東区を思い浮かべることが難しいように思う。

<その他>

- ・ 次回は10月28日19時から開催することとする。

以上